第86回 常設展示

占いあれこれ

平成10年1月27日～2月21日

世界で一番古い占いの本は、何かご存じでしょうか。

実は、孔子の「五経」のひとつである『易経』といわれています。ここから、当たるも八卦当たらぬも八卦という「卦」や「陰陽五行説」が展開されていきました。

明治時代以降は、西洋の星占いやトランプ占いなどが輸入され、また、昭和には、日本人にはおなじみの血液型占いがブームを呼びました。

今回の展示では、明治時代の占い本や、占いブームを起こした様々な本を集めてみました。

展示資料一覧

< >内は当館請求記号

明治・大正時代の占い本あれこれ

江戸時代末期は、「陰陽道」「密教占星術」といった占いがたいへんなブームをひきおこしていたが、明治維新により、迷信や呪術を追放する政策が推し進められ、明治 5 年(1872)にこれまでの太陰暦から太陽暦に改暦し、明治 10 年(1877)には「狐憑きを落とすような祈祷をしたり、玉占いや口寄せを業としているものが庶民を幻惑している。以降、こうした行為をいっさい禁止する。厳重に取り締まるべし」といった占い禁止令が各府県に通達された。そうした中でも、人々の占いへの熱は冷めず、様々な占い本が出版された。

星占い

１．年々星廻独占

池川利三郎編 <YDM13373>

福岡　開栄舎　明20(1887)　4丁　17cm

人相占い

２．人相秘伝

北河半蔵著 <YDM13367>

豊橋　北河半蔵　明21(1888)　11丁　16cm

易占い

３．掌中独八卦　古今無双

出雲井正男編 <YDM13178>

岡山　有宗仲一　明21(1888)　6丁　17cm

こっくりさん

４．狐狗狸怪談　西洋奇術　一名・西洋の巫女

凌空野人編 <YDM76339>

東京　イーグル書房小説部　明20(1887)　46頁　19cm

☆昭和 50 年代にも大流行したが、明治時代にも密かに流行したようだ。

銭占い

５．銭占独判断

三輪浅治郎著 <YDM13246>

名古屋　三輪浅治郎　明21(1888)　16丁　18cm

干支占い

６．十二支生年吉凶占

黒坂重助編 <YDM201836>

東京　電雲堂　明21(1888)　6丁　18cm

夢占い

７．占夢早考

三木光斎著 <YDM13524>

京都　寺田栄助　明25(1892)　11丁　16cm

かるた占い

８．源氏遊びうた占

富井楠次郎編 <YDM76335>

東京　富井楠次郎　明26(1893)　36頁　13cm

人相判断

９．嫁娶宝鑑　婦人人相

昇山房編 <YDM13530>

東京　山田藤助　明26(1893)　34丁　19cm

おみくじ占い

10．元三大師御鬮判断諸抄

京都　出雲寺文治郎　明28(1895)　58頁　23cm <YDM12967>

☆おみくじの考案者は、西暦 900 年代の慈恵大師良源(別名元三大師)という比叡山延暦寺の僧といわれている。京都で『元三大師御籤帖』等のトラの巻が書かれたが、本人の執筆したものに近いかどうかは不明。江戸時代に木版技術の進歩とともにおみくじが広く一般化した。

占符による占い

11．座敷独判断　一名・奇術神易

鈴木玄著 <YDM13112>

東京　鈴木玄　明28(1895)　32頁　15cm

西洋手相占い

12．西洋手相判断

松居松葉編訳 <YDM13243>

東京　大学館　明36(1903)　212頁　19cm

☆明治時代以前の日本の手相術は中国の影響が強く、明の「袁忠徹」が書いた『神相全篇』が原典といわれてきた。現在の手相術は、大正時代に輸入された西洋手相術が色濃く反映されているという。

つまようじを使う占い

13．二十世紀うらない　附男女の相性

山本完蔵著 <YDM76516>

大阪　山本文友堂等　明38(1905)　110頁　11cm

夢の中の花占い

14．西洋新式花占ひ

霊夢庵著 <YDM76436>

東京　隆文館　明40(1907)　207頁　19cm

指紋占い

15. お指の占ひ　一寸拝見

達観堂主人著 <YDM12917>

東京　国華堂　明42(1909)　56頁　16cm

手紋占い

16. 手の紋理吉凶の鑑　一名・手のすじ独うらなひ

木沢成粛著 <YDM13296>

東京　至誠堂　明44(1911)　48頁　23cm

声占い

17. 男女音声の吉凶　附・癖のよしあし

木沢成粛編 <YDM13279>

東京　博聞館　明44(1911)　16頁　19cm

そろばん占い

18. 銭易と算易

石黒玄山著 <特102-337>

東京　三秀社　大10(1921)　243頁　19cm

花占い

19. 蓮華占　真言密法

米村嘉一朗著 <特102-268>

東京　真珠書房　大10(1921)　189頁　18cm

トランプ占い

20. 霊感トランプ予言法

仲小路繁子述　仲小路一照園編 <特113-59>

神戸　仲小路一照園　大14(1925)　135頁　19cm

☆日本に現在のようなトランプが伝来したのは明治以降で、広く遊び道具として広まった。

占いブームをおこした、ブームにのった占い本あれこれ

21. 九星六曜吉凶表

京都　小林祐三郎　明15(1882)　14丁　15cm <YDM13074>

☆明治 5 年(1872)の改暦により、突然約束事がなくなった暦に明治の人々はとまどったが、明治 15

年(1882)に江戸時代に使われなかった戦国時代の六曜を付した暦が出版されると、それに人々は殺到した。

22. 高島易断

高島呑象(嘉右衛門)著 <YDM13265>

横浜　高島嘉右衛門　明19(1886)　10冊　26cm

☆高島嘉右衛門は、横浜港の築港に尽力した人物で、いち早く鉄道事業の開業を明治政府に申請するほどの事業家であったと同時に、江藤新平の死期や伊藤博文の死期を予知し「易聖」といわれる易占家でもあった。明治 9 年(1876)には実業家を引退し、易占い一本に絞った。『高島易断』は、その後増補、再販を重ね、明治 38 年(1905)には大ベストセラーとなった。この初版本は、漢訳、英訳され、出版された翌年の明治 19 年(1886)にはシカゴで開かれた世界宗教大会で発表された。

23. 恋愛の神秘

永鳥真雄著 <特211-856>

東京　実業之日本社　昭4(1929)　207頁　18cm

☆当時大ベストセラーとなった『手相の神秘』実業之日本社(昭 3，1928)の著書である。こうした永鳥の著書をもじり、昭和 3～7 年(1928～1932)には『○○の神秘』と題する類似本が多く出版された。当時、ウォール街の株の大暴落に始まる世界恐慌の波に日本が巻き込まれた頃であり、占いは社会的ブームとなっていった。

24. 生れ月の神秘　4 版

山田耕筰著 <特216-7>

東京　実業之日本社　大14(1925)　350頁　19cm

☆あの、世界的にも有名な作曲家の山田耕筰が執筆した本。版を重ね、昭和初期にたいへんなベストセラーとなった。山田耕筰は生まれ月による占いの外、姓名判断や手相も見たという。

25. 運命の神秘　附録・撰名字引

熊崎健翁著 <特200-463>

東京　実業之日本社　昭5(1930)　412頁　18cm

☆熊崎式姓名判断は、従来のものとは異なり、熊崎独自のものだという。熊崎は生まれたばかりの子どもを亡くしたときに名前に原因があったと考え、早死にした子ども達のデータをこつことを集積したそうだ。『主婦の友』1930 年新年号の新年特別附録「幸運の占ひ法全集」に集録された熊崎の姓名判断が反響を呼び、これ以降、姓名判断がメジャーになったという。

26. 血液型と気質

古川竹二著 <141.97-H853k>

東京　三省堂　昭7(1932)　393頁　23cm

☆血液型が発見されたのは明治33年(1900)ウィーンでのことだが、日本人で最初にその知識を得た医師原木復は、大正3年(1914)に帰国し日本人の血液型調査を実施し、血液型と性格の関連性とについて調査結果を発表したが、世間一般からは完全に無視された。が、軍の上層部の目にとまり、「血液型別の部隊を編成しよう」とし、軍医を総動員して血液型の研究に軍が着手した。が、結局戦争が激しくなるとうやむやになってしまった。本書は、東京女子高等師範学校(現：お茶の水女子大学)の古川教授が軍隊の研究をまとめたものである。これが血液型占いの元となった。本書が出版された昭和7年(1932)には医学・心理学・教育学の分野で広く研究が行われ血液型ブームがおこったものの、古川のデータの少なさや統計処理のずさんさを指摘、血液型と性格の関連性を否定する論文が多く出され、昭和9年(1934)にはブームは下火となる。

27. 高島秘伝開運法

東京　神宮館出版部　昭15(1940)　1冊　21cm <特501-486>

28. 九星暦術一代運気活断口伝書　再版

高島易断講究所本部編 <特501-543>

東京　神宮館　昭16(1941)　212頁　22cm

☆第二次世界大戦中は、占いが治安維持法の対象にもされ、占い本は発禁となった。特に業界トップの神宮館出版の占い暦は、20数万部も押収され、焼却された年もあるという。上記2冊も「安寧秩序妨害」として昭和16年(1941)秋には発禁となったものである。

一方、官許の『伊勢神宮暦』は発行部数をのばし、昭和16年(1941)には200万部、翌年には300万部、翌々年には5百万部の売上げとなっている。

＜戦後第1次占いブーム・昭36～37年(1961-62)＞
新日米安保条約をめぐる混乱期で、岸内閣総辞職などがあった頃。

29. 易入門　自分で自分の運命を開く法

黄小娥著 <148.6-Ko389e>

東京　光文社　昭36(1961)　215頁　18cm

☆本書が出版された同じ年、同じく光文社から出版された浅野八郎著『手相術』もベストセラーとなったが、『易入門』は2ヶ月で40万部を突破、昭和37年(1962)には年間ベストセラー第一位となった。本書がはじめて占い本を出版市場に乗せ、今日のブームを作り出すきっかけとなったといえる。

30. 西洋占星術　あなたを支配する宇宙の神秘

門馬寛明著 <148.8-M755s>

東京　光文社　昭41(1966)　225頁　18cm

☆本書がベストセラーとなった翌年の昭和 42 年(1967)1 月、東京都内の複数のデパートが一斉に正月イベントとして「占い」に関する企画をたてた。新宿ステーションビルでは「四次元の世界を解く　占展」、新宿の京王百貨店では「新春 0 の占い」、池袋の東武デパートでは「幸せの占い大会」などが催され、買物客が殺到した。これ以降、デパートや駅ビルなどで年 1 回は占いのイベントが催されるようになり、やがて常設の占いコーナーへとなっていった。

＜戦後第 2 次占いブーム・昭 42～43 年(1967-68)＞
　大学紛争が激化、イタイイタイ病が公害認定になるなど公害問題が表面化、高度成長期の真っ只中。

31. 姓名判断子どもにつける名まえ

野末陳平著 <Y78-1439>

東京　青春出版社　昭47(1972)　282頁　19cm

☆昭和 42 年(1967)に出版された野末陳平著『姓名判断』(光文社)は、同年、ベストセラーとなった。本書は、それに続くもの。戦後第 2 次占いブームのこの頃は、占い学校が流行し、主婦やサラリーマン、医者、警察官、高校生、大学生にいたるまで、様々な人が占い学校へ通い、自ら占いを学んだ。

32. 血液型でわかる相性　伸ばす相手、こわす相手

能見正比古著 <Y78-1349>

東京　青春出版社　昭46(1971)　283頁　18cm

☆古川竹二著『血液型と気質』の学説を復活させたものといわれている。ただし、能見は、自説を他の著者が取り上げるのを嫌っていたため、彼の死後になってから、占い師を含む多くの人々が血液型性格判断に関する本を出版することとなり、1980 年代になってから血液型占いブームが起こった。本書が出た昭和 46 年(1971)は、1970 年の安保闘争、全共闘運動が終焉した頃で、国立、公立、私立を問わず、大学に占いの同好会、サークル、研究会が次々に誕生した頃である。

33. 週刊明星　No. 26

東京　集英社　昭49(1974)　7月 <Z24-470>

34. タロット入門　ジプシー占い

木星王著 <KD958-10>

大阪　保育社　昭49(1974)　152頁　15cm

☆欧米では古くから親しまれてきたタロット占いが日本で広まり始めたのは、昭和 40 年代に入ってからで、その発信地は神戸だった。昭和 49 年(1974)5 月に神戸の地下街で日本最初の「タロット展」が催されたのをきっかけに関西を中心にタロット占い師がぞくぞく誕生し、木星王もその一人であるが、本書の出版によりタロットの研究家として先鞭をつけた。

＜戦後第 3 次占いブーム・昭和 54 年(1979)前後＞
日中平和友好条約の調印、第 2 次石油ショック、自民党の衆議院大敗北、中年男性の自殺が話題となり、「窓際族」が流行語になった頃。

35. 天中殺入門　算命占星学 2

和泉宗章著 <Y78-4360>

東京　青春出版社　昭54(1979)　228頁　18cm

☆前年の昭和 53 年に出版された和泉宗章著『算命占星学入門』と合わせて 300 万部を越える売上げを記録した。当時、「天中殺」ということばも大流行した。巨人の長嶋監督辞任時期の占いがはずれ、和泉宗章は易者を廃業、逆に占い師がいかにいい加減であるかを証言した『占い告発』(昭 57，1982)を出版している。

36. MY BIRTHDAY　創刊号

東京　実業之日本社　昭54(1979) <Z32-608>

37. プチバースディ　創刊号

東京　実業之日本社　昭62(1987) <Z32-766>

☆「MY BIRTHDAY』は公称 40 万部を維持する驚異的な占いの人気雑誌である。その購読者は中学二年生から高校二年生で約 7 割を占めるという。小学高学年から中学 1 年生向けに『プチバースディ』、OL 向けに『MONIQE』(平元，1989 年創刊)も次々創刊された。

＜戦後第 4 次占いブーム・昭 62～平元(1987～1989) ＞
円高不況、産業構造転換など先行き不透明な時代といわれた頃。

38. 自分を生かす相性・殺す相性
六占星術による“相性大殺界”の読み方

細木数子著　東京　祥伝社　昭60(1985)　263頁　18cm <Y78-8125>

☆本書は 77 万部という大ベストセラーとなり、細木数子の他の著書『六占星術入門』(ごま書房)『大殺界の乗りきり方』(詳伝社)をすべて合わせると計 600 万部以上も売れた。独自に編み出したという六占星術の、非常に悪い時期を意味する「大殺界」は当時の流行語にもなった。

39. 週刊テーミス　第１巻第 20 号

東京　株式会社テーミス　平元(1989)11月15日 <Z24-1017>

☆「新宿の母」は、今でも一日 100 人のお客を相手にするという。1960 年代初めごろからで、かれこれ 35 年以上「新宿の母」を勤めているとのことである。

40. 社名が悪いと会社が危ない　CI の落とし穴実践・社名判断

中山雲水著　東京　角川書店　昭62(1987)　246頁　18cm <HR511-265>

☆本書の背景には、昭和 57 年(1982)からはじまった‘コーポレート・アイデンティティ(CI)’ブームがある。CI は、会社の理念の確立、体質改善や意識改革を行い、会社を発展させるのを目的としたが、やがて企業のロゴマークや社名をかえることで目的達成とされるようになった。本書は、こうした CI ブームにうまくのったものである。

41. 月刊中小企業　第 41 巻第３号

東京　ダイヤモンド社　平元(1989) <Z4-191>

☆平成に入ると、占いはビジネスとして注目を集めるようになり、第 4 次産業ともいわれるようになった。ビジネスとしての占い産業は、昭和 57 年(1982)4 月にオープンした、ビルのフロアを丸ごと占いコーナーにした「占いの街」がはじめといえよう。ここは今日も大変な繁盛を見せている。東京では、昭和 61 年(1986)、原宿の竹下通りに「占いの街」を真似した「塔里木(たりむ)」がオープンし、今も人気を博している。

42. 13 星座占星術　これからは、へびつかい座が加わるぞ！

マーク矢崎著　東京　主婦と生活社　平7(1995)　238頁　19cm <HR511-G82>

☆バブル崩壊後、再び占いブーム(第 5 次占いブーム？)が起こっている。星占いにおいては、これまでの 12 星座から 13 星座が注目され始めた。13 星座は 1995 年に英国で大流行したもので、その年の末には日本にやってきた。テレビのワイドショーなどで取り上げられ、女性誌をにぎわした。同時期に出版された本に、ウォルター・バーグ著　鈴木樹代子訳『13 星座の星占い　「蛇使い座」の発見で、あなたの運命はこう変わる』もある。

請求記号が YDM で始まる資料は、マイクロ資料でのご利用となりますので、展示期間中でもご利用になれます。

＜参考文献＞

・『占い師！ココロの時代の光と影』

露木まさひろ著　社会思想社　1993 <HR511-E530>

・『＜占い＞の不思議　知りたかった博学知識』

博学こだわり倶楽部編　河出書房新社　1994　<HR511-E725>

・『占いを信じますか？』

歴史探検隊編　文芸春秋　1994　<GB29-E191>

国立国会図書館 03-3581-2331(代)
ホームページアドレス http://www.ndl.go.jp